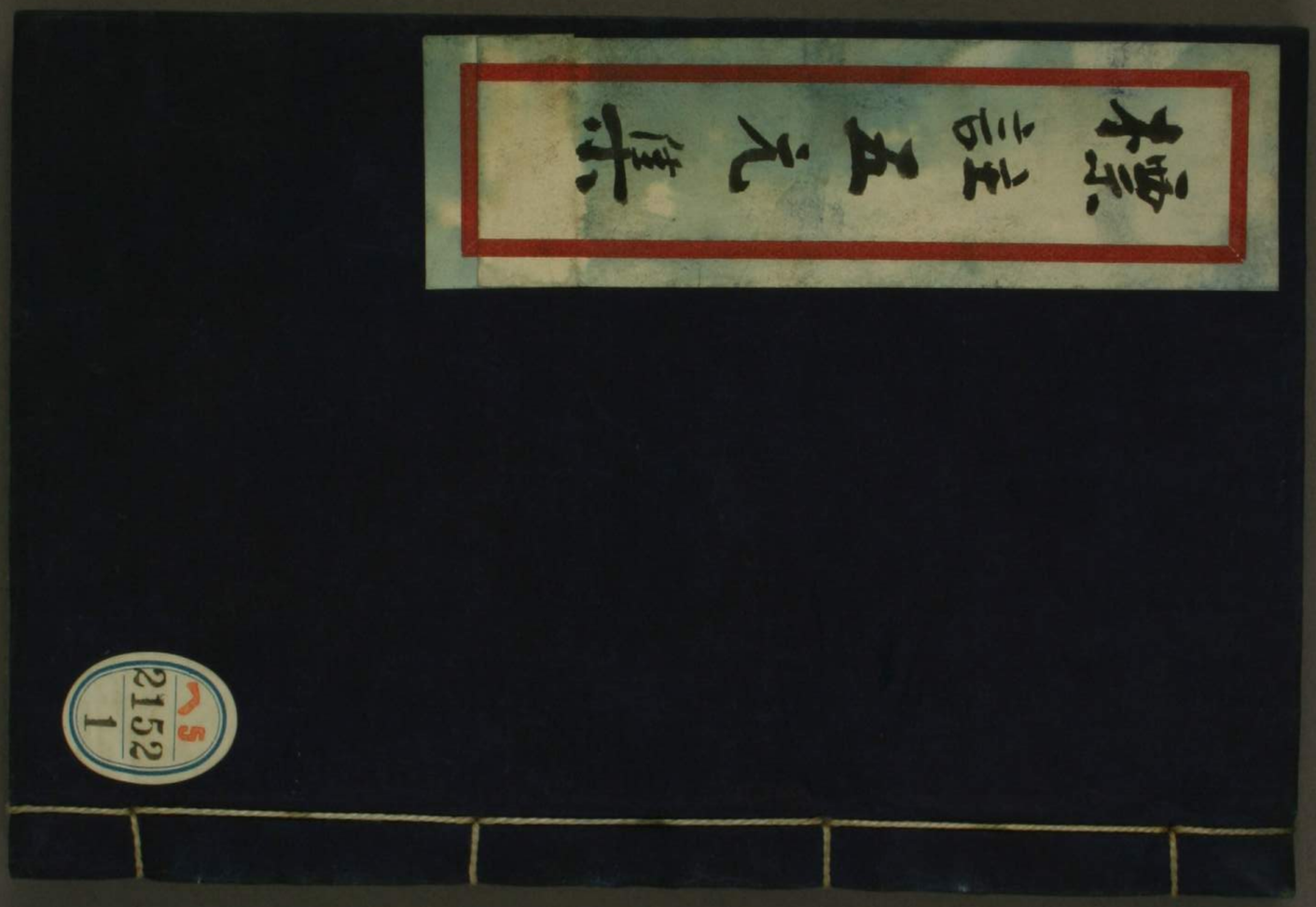
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



0 1 2 1m 3 4 5 6 7 Tajima 8 9 10 1 2 JAPAN 3 4 5 6 7 8 9 20

特
門 ヘ利 ろ
號 2152
卷 1

藤野潔氏遺愛之記

明治四十一年四月廿四日
藤野潔 氏寄贈

京都帝国大学図書之印

晉子一世の辛白ハこれ〻〻五元
みちくさりとハ〻も鳥ハ白画
り戯言の白もろ　あるハ一斗
百扁ハ波吟又ハ柳巷の暁梅店
の皆ミつの〻も芳ばしてもれ
るあるを人〻ハこれをもてそや
して第よりめ物みるめ吾家
くの青氈とうをこそきりれあ
まくさりもめて編く
まく一書とふものゝ

長慶集元亨釋書ふるきこえ　を集編
ありるそれ〻〻の号をやりて名とふ
もせられるこれハ延宝ふはまりて寶
永よ終るその間ゑえをあるめそるり放
ありりるふ晉子の滅後ふいるつて
きれ人乃ゑよりるとも志〻れ志りて酉
正徳より今ゑ享まてにこれも又五元と経
るきりもせそのゑ乃ゑ〻〻きこえて
集ハ世ふかるれるやこそよ国也
ちまく志〻ちるるおほん神ふ

つゐ大徳の主うり古代の物このてゝ
ゐつゐまゝ中にはまるとゝはう
ゐうりきゝひゐもふ和宝とめてゝとの一ぬまこ
めはうちふぬこひめん乃宿連もゆりみ
はゝ居垣とまゝる宮奴の枕れ花よ祢ゐる
をまいふうしろめゝやちとゝ仏ん
されをものゝ華西きまゝる山辺のを和
をものもハ縁と求めて見んゐをとふ
めるふ大徳うけきゝるきはゆてむをゝ人の
るのゝ祢をとゝつゐゆをふゝとりいてゝと

席をかへて見ゐこゐ我ゝよいをゐる孔
ハ生寅もうゐしゝ婦ふやゝゐ一人ふ
月のうちれこうゝのゝをもゝゝあ
つゝ予もゝよりこ孔をゆく先師の
ぬゝとゆゝめゝゝ人とけゐふちゆゝく
とゝ一とこうゝ祢きまゝをゝこのはけゝ
つゝ持ゐる人をゝゝをゝよ予このゝくゝゐる
をゐゐりゐ孔ハはゝめゝり祢ゐゝ
こゝをかゝりてをゐむゝゆゐをゝ
さゐゝ彼家よゐゝ度をゝゝ

かりあけさらつゝみて衣通姫の座よ
七日まてうちきゝけり一者のことを記
こゝろさしをやめてうゐんこうらして
あるこゝろよろこひまろひもてかゝりて
よみの紙と中よりかるゝあふ草
稿のやゝ〻ゆ引くる本の送墨八十八を一冊と
せうこのうて晋子澤今ゐをうこゝろこと
しうれしくもまあるもあるも
めつらしくもまゐるのかんさしをほて
こゝろくやとゐるもあるを

成〻〻今ふゝめよりのゐのこゝろ
と櫃よゐさめくかくそこゝろあく亀成とゝふ
この筆をうつて水れてゐる魚を画くゝこゝろく
一点をそゝうつて梓行〻〻世の晋
子を志ゝる人とこゝろさしをゐ志
う〻〻侍りぬ

百萬坊吉原

標註五元集

延寀　天和
貞享　元禄
寀永

寀晋齋ハ米元章ノ硯の裏ニ鐫
入セル号ニ三昇子其硯を尊ふ
ものゝ寀井晋子ハいつゝ此号
写しくらかつゝとて筆ものと
に述のゝるをやりて佐玄龍ノ額
を需て雪月の軒葉よこの

延寛乃ちゝめ桃青門よりよりて定永の万〻歳をよろぶやいとてふさゝりなり

其角

○御手調美貴妃捧硯
力士脱鞾　唐才士傳
巻三
○愛宕下四代前ノ穏
岐トノ肅山擅邪玄宗ニ
ヲキ殿ヲシテ其身ハ李
白御秘蔵ヲ嫐妃ニシタ
ル也賀ノ丁源氏等ニハ
廿ヨリモ見ユ
○大音寺吉原近所今
ノ俗大ウン寺ト云
○田村ノ訊
汝此所ニ有ツテ獨ノ且
邪ヲ持テ大伽藍ヲ建立
スベシ清水緑起ニモ見ユ
○芭蕉庵ノ沙彌ハ小

標註五元集巻之一

四十の賀ゝ絲くる家ゝて
御秘蔵よ墨を摺せく梅の穴
遊大音寺
んめ〻〻〻元食の家も字眼訳〻〻
加州小松観音寺奉納
梅の宮且邪を待く庭ゝ河
芭蕉葉のゆふけものゝ
〻て繪賛をとけゝよ
せめてもの宮乏柿よんめの宮

坊主ナルヘシ
○初午頃春餅リニ賣殘セシヲウルナリ小キ串柿ヽ
○古今
夜のとの園ハしあやふ〳〵
梅はなをいろ〳〵そ〳〵
ふくもゝハ〳〵〳〵〳〵
○風ノヤム夜ハ藪ノ梅ノ
匂ヒカナト云句也
○紀國屋文左衛門吉
原ヒ同道ニテ禿ノ小袖
ニ打付書シトモ
○宰府ハ亀井戸也
○梅守ト有ヘキヲ老松
ノ諷ニ守梅ト有ニヨル梅
ヲ守野叟也

曉
を上よ園をうまてやむめのそ
不曲亭
あせを城目あて〻梅の白ひ
こつ〻と尽のやむ夜ハ藪の梅
おつ〻〻よ枝のさみ目や梅のそ
宰府奉納
守梅乃遊ひワさ〻野老責
和心水推敲〻句
さ〻くのふき尽みち〻り梅の門

戯賦一紀
愛君滑稽一時豪　雁字帯霞入彩毫
相見梅花門裏月　不知誰与定推敲
呈几右
心水道人稿

○裏若紫ニアリ
敲レシ杖ノ下ニテサトリタ
ル心アリ

○佐竹ノ家中其雫ハ
晋子門第也雫ハテキト
ヨム古字也

○幡持ハ武文臺ハ文
今日ノアリサマ其雫ヲ居
リシ側ニ幡持居ル風情

梅津氏　北祖父大坂
表の軍功ようりて
沙感狀　沙方を以戴
せ〻ふ正月十七日の終とも
佐井上枚時ハ此家の家臣
十七人と云ふ此風おつて
そも正月十七日鏡開の夜
ハ其雫ハ智執權ト
ハ其の雫ハ
幡持と文臺脇やむめのそ

有ルト云ノ句也
○蚬蛤等ノ珠十五城ノ夜光ニカタトル玉山珠海
○西ノ窪玉芙公其角門
○外様ト云ニテ大名アリ梅ヲ拝ケリトハ身ヲハ分リテ庭ノ梅ヲ霊ニ拝ムト云フ也

元日や珠喰あてし人の
句を祝て　といふ事
夜光る梅のつぼみや貝の玉
仙石讃岐守との正月五日に
参りたまひぬ玉芙か許
御梅に
外様とて南の梅を拝みけり
元禄十四年二月廿五日
聖廟八百齢御年忌於
亀井戸社詩歌連誹令

○梅ニハ昔レノハレナト、ツレヽ艸ニモ有昔見シハ若木梅ノ皮ハ古木
○夜ノ梅ノ見越テ星ヲ見タルヽ
○百八煩悩ハ鐘ノ数ナリ夜ニナルユヘ迷フナリ人ナクレテ立サランヨウノ句也
○古今 [illegible]
○声ノ薬ヲ唐カランヨ春スモノヽ藝者ナト、見ルヘシ
○我ナラナクニハ我テハナイ

興行一座
梅松やあつむる数も八百所
氷肌玉骨とこそ
昔見し花よりまし梅の皮
久松粛山亭にて
梅さむし老若の星乃句手跡
百八のかねて迷や闇のむめ
深川芭蕉菴をとひて
鶯や十日過てもはしめ
うぐひすよ薬教ん声のあや

ト云フ

○箒木巻

箒木のありとはみるもかつらぎ
あまぎぬ君ぞふる

○イク井ハ狂言ナリ頭巾ヲクフリテ是ニ罷有ト云サマヤミノ梅ノ風情

○万葉

鶯ノ花踏散ス細脛ヲ大長刀ニカケマシモノヲ

○朝日山茶ノ名氷ラス三朝日山カケ合

○古今

雪のうちに春はきにけり鶯の こゑもをしまず なるかな

孟子止丘隅

脇押のわきちかくよ梅の花
箒木眼寛はゆくいろ是よやこの梅

隅

鶯の方を逆ひはつまうゑ
うぐひすといて物をえ杉浜
・茶臼ゑ物うる絵よ
うぐひすの曲こる枝を削ゑ
鶯よ花もちとひきかへる
うぐひすや言葉ゑ礼反

市隅

竹ゑんて鶯来こう仏虎薬

○古今序

花ニ鳴鶯水ニ住蛙マテ

○紺屋ノ竹モクリナリ

○為家ノ妻阿佛尼ノマヽレキ子ノ為輔卿ヲ障子ノ内ヘ入タマヒス明障子ト云フヲ歌詠ト言レニ為輔卿イトケナキ頃

いもうとのいぬきの竹
岩のあとしあるしや
うぐひすとふらん

○木下肥後守舉白集

○歌ハクハシヨントテムノ字ニ句ハ土手ノ馬カクハンモノヲムケニツムヨト云作

崔ゑや石のうり陰ゑの笹の影
長嘯の記よ浅ゑの観音
そて国ゆすりてもてゑ
佛をえん子ゑ
いうゑんや地をよ刈ふあ
けくるのくんをもむまのこ
のこ一つる其ゑをあるひて
土ゑのるくんを無下よ菜つ張
正月巳巳布施の弁ゑ天へ
酒ゑるを紹

十リ
○歌ニハ葉トミヘタリ是ハ白キ花ニテ書カト思フ句也弁天ノ如意寶珠(寄)
○佐竹家中梅津其雪ノ一家窓ト梅ハ歌ニモ多ク詠也
○朗詠
紫塵ノ蕨手ヲ握
○是ノ指ノ海乃立木やゝ〳〵ん思ひの外よ君の来ト〻る
○御具足開
熨斗ヲ餝テアル也
○アツタノ大宮司娘五條坂アコヤ

玉椿畫とみしてゝ布施菴
梅津硯水會よ
窓洲やれと(破)梅かころひぬ水
正月サヲ冠黒公よ伊達
菜刻この上手を拵る蕨ふ
梅木を画て
来ませさの〻継とゝ〻ん〻ん
十一日
お汁粉を還城樂のゝもと引
景清ゝ和帯みせゝゝ二蕨

○此切句出所不知　杜甫
○狂言也鼻ノ上ヘ紙付ルヤリ削カケニ張レ紙ノ似タル也
○如句面易解
○茱摘川ノ神妻二人
静謡曲
○冠里公ニテ是ニ蕎ホリタ居ルカラレハレマテト云句也
○万葉ニ不見　催馬樂ニ朱雀ノ柳トアリタヒラヱ不知禿ヲ出ロヘ出サントテノ詞書也
○舉白集山家ノ所ニ

漸覺春相泥とふ切句
削ケ膏藥ねりの鼻よあれ
畠ゝ〻泥中よふこゝろふつゝ
二人一つゝのけぬふ
ふつゝ扇二つをとふこてふ
百人の雪掻ちゝし蕎ちゝ
一万ゝふちゝゝゝ朱雀の柳と
ゝゝ所ゝゝのゝゝまを
ゝゝまゝ新ゝ白ゝる蕎外

小娘ノコナキカ花ニテハンヘルト井トキヨウ有リ
○トハレリハ刎ル雫匂ヘルハカヽルナリ作ヨロシ
砂植ハ東寺邊ニテ大桶ヘ水砂ヲ入作モノ也
大名方ノ句ナルヘシ水菜ハ冬季初ノ字眼也
○芹摘ー首の人もとのことやへ子物のりふハさりゝん
○河州ハ尾娵ソレリハ堤ノ名也
○有集ニシンクト題アリ
一升ハトテニ賣買ヲ持タリ

七種や明ぬる年の花もとゝ中や沼よりうゝ新年
砂植の水菜も末つ初眼ふ
溪邊双白鷺
沸ゝ鷺 芹 流れふ流るふ
うすゝ氷やワつゝ流る芹の花
一升ハかゝゝきはよう帆ふ
石ゝつ清ゝ沼やむさ幌
白魚や浦苦ハ下邊の買合せ
りゝ水やのゝと海のまの味

○大甲涼石ト云其ノ奇石多シトアリ
○置越ニ雲雀ノ上ル句
雲雀篭ト置ノアイシライ氣色ノ句也
○小礒ノ貝トモアリ
○小松曳ニテ季ヲ持タリ
引ソレテト云ニ鼠ト兩方ヲ用タリ
○莊子ノ句
有國於蝸牛角之左曰蛮氏右曰觸氏爭地而戰伏尸數万逐北旬有吾而反

白魚や漁ゝ歯よあひゝゝ
白ゝをの置よりゝふひゝゝ
陽炎やふ陽乃砂もゝゝそひ
ゝゝゝゝ
こゝゝゝ女房ゝゝせん水祝
衆蒔入懐の雪をひゝゝ
引つゝて松をくいゝる蒔ゝふ
寶引ふ牛の角を多眼くせ
帯せぬそ神代ゝゝよ暗者宴
雜炊人神の神を打て七八

○踏歌宴今ハ名ノミ此句不解

○止月ト類柑子ニアリ

山吹ノ花ノ柳ノ芳立シナイノコトノナルヿ

○梟ノ兒目カ子ノカヽリソウナル容形アリ

○加茂ノ合御田

○蝕ハ稲子稲荷ノ氏子ノヿ也此頃ヨリイナリ繁昌ナリ

昼成

句を考ふ中ゝ大黒屋をハ
ひめ〻せて〻梅ひとつ送て遣り
年神ゝ梅の口ぬて〻小槌ふ
三月正當三十日
山吹も柳の糸はは〻こゝ
梟子あをぬ目鏡や臍月
種〻や お神宮〳〵一つゝ
蛭蛭や天氣定めて稜下
格枝繪馬合ゝ
こと〻〻新蚕ゆえ〻稲荷

○行平ノ歌ソレハイナハノヿニテ又カヘリコンカ是ハ七夕ノ年二度ノ星シヤト云ヿ

○黄舌ノ出不知

○此芥子酢ハ摺餅ニ似タリ鶯ニマチカヘクハセ

禁固ヲ破りて暇ヲ玉ハル之
破や見惜い紙我父乃〻兄
やふ乃やそれもいふとの見ち星
故赤穂城主浅野少府監長矩之舊
臣大石内藏之助等四十六人同志異体
報亡君之讎今茲二月四日
官裁下令一時伏及齊屍
万世のけ〻つ〻黄舌我ひ〻
肺肝をつ〻ぬく
うくひすゝ芥子酢ハふ〻〻ゑ

タノナリ

○半面ノ印安藤家ニ残レリ湖十印ハニセモノナリソウカント云者作ル

○不聞

○ちゝ乃川ちり乃滝ちゝ乃ゝ消ちゝつゝの

冨森春帆大高子葉神絵竹平これゝゝ名ハ焦尾琴ゝゝ弾りゆゝけるゝ

點印半面美人のを彫て琴形の中ニ備へタルをはめて冠里公の方々の巻ニ押弘めけるとて

老の月雅てゝ物書はめ引

悼後立志　初音ハ女ゝ

皆りれ初音三井ち受ける

題水

雪の白雪

○臣濃ニ

サメノヅイハ藁シヘニテ通セハツイトトウルモノナリ

水ノトゝコウラヌ丁也

○水間寺河内觀音寺也寺内ニ稲荷アリ

○初午ニウル也

ちくゝ乃河ちり水や蛟の髄

屋賢

拾ひ乃風巾みゝゝむや玉菊

夜ふけ乃ゆゝる水くゝ乃百寺

寺納

金柑やゝ青ゝけてゝ稲荷出

薮入やてゝハあゝるゝゝや菊

ふゝ入や牛合ゝてゝ大原も

元祿西子のゝゝゝむ月つゝゝ

河茅ゝゝゝ出山ゝゝあゝ仏

畠中の梅のかつえよ方斗
ある蛙のかゝをアつけて賜ワ
草茎なるこしとれとり仕る
草茎を包む紫もあき雪百ル
牛豆とはゝ柳うふ
御忌
人の世や乃とゝある日波も林
本多紙品公よて
涉州川浜舟

○正月廿五日法然上人ノ忌智恩院十リ

○セ、本多領地草津鞭ノフシノアノセハシキ丁

○浅草川先カ知ヌ所十リ桃源ノ俤也

河上ハ柳うんめり百千ゟ
柳ゟハ敷もうゝ寸ゟ
桐二十や柳の曲をつふ狙
市川才牛追善
塗一ゟ九蓋名残つき仕ゟ
菜の又ハゟゝや雉の色
菜苑
黒ゟ麻てゝをあゝぬゟ土筆
毒毛やしきあゝ柏
笠形あいさつ

○柳見ト言コトナクテ柳カナ山句也遣レ丁ヲミルヘシ

○橋ノ欄間也柳ヲ毬ノツトウヨウ也

市川九蔵ハ白筵也

五元集詞云トハ違フ

○俗云ものいつハ又ゟゝの
物柱ゟの事ハ雄ゟ
いゝきゟ

○筆ヲ奇スコヽヲト云丁眼十リ

○伊勢物語枯々シヒシキニ似タル也

○梅ノ袖ト云フニテ人ト云フ有リ
○浅草ノ三十三間堂

○田舎句合

○傾城ノイツカタヘモナヒクウチニモ我ハ思フ方
（立ルイキチノ柳ノ木立賢也

閑の庭のをうちいとふ梅の袖
新こ三十三間堂
ふ舟やきの〻の箭尺も本綿
青柳よ婦陽つゝふ夕そゝ也
柳上海の同ふ
ゆきゆよ海の影乃る柳ふ
俳諧の賢ふ中柳こふ
春西
絶り立てつふり海の雨春ふ
ゆ東ふ日沈ふ

○西行ノ死出ヲ我旅ノ始カナト云句作也
同　くハたのけふ西行死ん
のもろ母の比
○法華ノ如渡得船

○自問自答佛トハト問櫻ノ花ニ月夜シヤト答也
○田舎ヲ思フ情也

二月十五日上京渡之
西行の死出旅を旅のそめふ
渡ふ舟武士ハ唯乃る彼岸ふ
佛若大晦日ふ入滅ふ
へさうふ家もの〻めふ
往生ふのそのそ
佛ふ花ふの花ふ日春ふ
山里の名もあつ〻伝猫活
初茸の盆と乃ふ聖光貴

○里ビタリハ里鄙タリ也
○三段ニ見出シタル也
○此一筋ニコソアレト云ヿ
○都ノ太夫ヨシノト云共及マシト云句
○朧ト云物ハ松影ノサイテホンホリト見テ月夜シヤト云ヿ
○藁ツトカ玉水ニ似タル也

とてろうても邑大京の里ひゝろ
野風のこれをくふんつくし
竹のよしや柳を露ぬ落のとゝう
梅ぶや此一すしともちみとゝう

二月十七日京驛
両世の膨都の太夫見んて参ん
おぼろとハ松の黒さよ月夜哉

鄭旋の此邑鄙の居を問て
一樽の玉子を送る人ニ
ワらつとや宮の玉九十とよむ

○十とよむハ吾の子は十川ーすゝゑとぬゝらおもとぬ君の子あかりい
○蟻通謡也傘ヲ持テ出ル也
○白氏文選集カニアリ
○荒ハテシヤシキヨリ中間ナトノ呼込フセイ眼前也

南都にて行をふ　雨
傘や薪の奥の行ましとし

無車馬喧
夕日影町中に見こてふ八

見獅子舎有感
てふちるや獅子ハ獣の君とと
蝶とふや猿をよび込京屋敷
菜屑にも花をつくすましこてふ八

釈菜
聖堂にこほれて蝶の袂かハ

○百とせハ花よいとひくすしにてゐるハ法の梦うそかうり
○柳ヲ梁ニ見立シナリ
○盃ニ燕ナ落シソ村燕翁
○凧ノアタリヲ菓ヲ引燕飛カウ風情也
○内(カケル階子也佐ハ助字怒木クツノ飛フヲ
○颱(ツイカセ)ハ土砂ヲ巻上テアトノシツカニ日影ノシタル全情
○鷗ハノリヲ喰物也
○蛙合うき蛙ハ墓の遠ちゝも一両夜ハ曽良
○父東須モフキノ時ノ句也
○帆柱越ノ句也帆柱ニモセミアリ
○坐頭ハ得タルアセツタ

百とせハぬるう菜乃こてふ
柳燕圖
ひるの蝶とうこうに柳ハ
茶のゆゑ蝶ふ蝶しそ里菜
画けん
燕やかろゝ巣を出れゆ
階ろうとふけよ及ふつゝ
海面の虹をけーさるはハ
傘よ蛙かさうるぬき燕
颱やひもうたれと夕日影
うつゝき鶏く雉の距ふ
人うゝ雉をとゝもる犬の声
角田川
おれも甚ふを弱ろう雉乃声
海苔すゝく水の名ますめ都ゝ
小田久ます鍬も柱やのこぼ原
夏ハ一ゝかちつる江ハ星の数
ちんゝ蝦よゝふる泪ふ
帆柱のせみよりかろすゝ雀ハ
苗代や産ハ原ハる眼ハ

ヒ也上五文字アトニテヲキタルヘシ
○土俵ナリ
○景政ヵ片目田螺ニナリシト云セツモアリ
○記行ノ句也桑ノ木香ノツヨキ句也
○松島ヤ島霞ハ松嶌ヤ雄島ト歌ニテツヽケルニヨリシナリ
○日本記第七景孝天王事
八月到的村而進食是日膳夫等遣盞故時人号其忘盞處曰浮羽今謂的者訛也昔筑紫俗盞曰浮羽
日本記景孝天王ウクハノ村ニテ食ヲマイラレシニ大椀ヲ忘トアリ浮羽村今的ト云
○舟三艘ナラヒシカ富士ニ似タルト云ヿ也鹽尻ハイセモノカタリ也三保舟ト云カケタルナリ
○馬ニ出シ童ヲ待折節クハイライシノ来リテ子

そはのもとに俵よ流す小梅ぶ
景政ヵ片目をひろふ田螺ふ
みちゆくやくれゆく
孫ともの蚕やーふ日向ぶ
きりぎすや桑のふよ酔ふ尾張
沾徳岩城ヲ通ーて
銭ふの白もきを恨むる
よしやしばしー
松島や嶌ヵ見ともしら扉
南村千洞仙臺ヘふる

行春や鳥ロを結ぶ乃忘貝
富士乃絵ヲのそまれ侍り
三帆舟ハ塩尻ふのるり沢ふ引
小屋ふふつーふる梅の小梅
貝の茅茎をとんもて人ふ
匂をすめけるつふて
梅の名をうーてや貝のやとりそ
いせのやー庫をふ侍るタけ
とふしを
馬ふ出るふと伯門や偲俱師

ヲ待タルサマ
日暮ぬ今ぞ帰るん
ふふ〜〜〜〜ん〜〜〜〜ふの母も
我ぞまろん
○アハヨリ出ル
○四聯
豊干　寒山　拾得　虎

偶偶師子の吼声を小ぶ
四聯圖
このけちふょぬても動くや虎の耳
三品小酒井村新音を納
めを輪や鼾もこの春日宮
或ちるよ移〜比丘よて猶の
ぬけ〜るちを〜〜り住杯
乃浦くいとを〜みやこれ
〜〜〜五ツの法を感ル
煖ふ所　嗅　出ル　ぬふぶ

能聯

○七年養タ春雨也
○田鼠化テ鶉トナル鼠ノ味ヲ人ノ方ヨリ問テ見マシ也
○花心ハ忘スル心ナリ子共ニモ用ユ
○自得ノアイ老牛小牛ヲ舐毛詩
○他ノ蝶ヲ嚙テ已カ子ヲ甜ル
○ツケ木ツク者ノ容形

能忘　かも一年七年のふる雨の百
能捕　鶉と鼠の味を問ては
能狂　陽炎と去るよりよりふ心ハ
能恥　盤のあるあるあつし花心
自ら

蝶を嚙てる猫を舐る心ふ
足沼をつまとふ猫や雪の中
猫のあれんつるれつ妙蝶ハ
市間喧
ちけ本尾のまなく足ぬる白蛙

○春ノ夜ニ女ヲツレテ行ヨウニ余所目ニハ見ヘテモ我娘ナレハ名コソオシケレト云フ

ひいふくゑん

○童ニシテ角ナク毛詩

○白酒ノフナルヘシ

○昔ハ曲水有シトナン

○白ツヽシヲ仕丁ナト、見立タルナリ

○三月三日ナリ鶏聲ノコトニイサマシイトナリ

○鹽嚢抄曰

遠樹ノ酔帰の路霧の内よて
春の夜の女と成んすめ小
宰府系図の舟中
菜の花乃小坂を上角ふるうり
醴ヶ桃雪の詩く紫白一
鶏の狗ふよはゝゝゝく逆毛小
王子曲水ふるをてて
多呑を烏帽子ふよ乙ん岩て
曙やとに桃花の鶏の声
花ちるふ桃や竜門妓の胡蝶
狂言ノカミ有リ

玄中記曰東南桃都山有山ニ大樹桃アリ枝相去フ三千里上ニ天鶏アリ日初出桃樹ヲ照ス時天鶏声ヲ發ス天下ノ家鶏皆是ヲ傳ヘテ鳴ト云

○傳ヘ来テト云下シ延喜銭ニ延喜皇ヲ含メリ

○松浦五郎太平記

○雛ハ鳥ノ名ナレハ木兎トヲキタリ

○伊勢物語

碁盤ヲ井筒ニ見タリ

○宝家

弱とゝく袖打ゝゝ
みもゝく佐野く浦

佐野来て雛の宝や延喜銭
尺てのゝや盗まぬ雛ハ松浦舟
おはゝゝ本名もあり雛産業
雛やゝも碁盤ゝゝおろゝみ
三月四宮ゝけゝゝ
ひゝやゝの佐野のゝゝの宮袖
坂のひふ清水坂を一目ゝ
打菓ゝや井筒ゝ成て雛ゝけ
雛ゝ成宮腹ゝはゝけゝ
永代島八幡宮手納

の雪の夕暮
○清水坂ムカシ傾國アリシ所段ヨリ見ヨロシタル雛ノ傾城ニ似タルト云フ
○宮腹々々ハ源氏ノ言葉
○今ノ深川八幡
○鮑ナリ太郎貝治郎貝鎌倉ナツ録ニアリ曽我物語夜
○銚子邊ニ紀國ノ鯛釣ニ来人共多クアリ
○酒ヲ氣違水トモ言
○水マク今○ツレヾ水ノハキ流ルヽコト

汐干也まつをてと来ぬ次序貝
釈きらも皆を踏ん汐干かな
紀國の鯛釣つれて汐干かな　名連之
笑酌
もとこのしや雛子笑ふし小盞
曲氣子河の氣違ハ茶碗かな
菓子ゑ多けし人形也桃の花
曲水や覚ぬる宿なりき
綿とりて祝ひまきる雛の良
くらゐを雛も憐め虎の母

○曽我物語　貴之
うつりゆく人なきつせの山わろしよきそし
きれよふいのるぬ桜
○桟敷ハ舞臺カ止ヘシ家作リノ内ニ桟敷ト言所有ル歟
○桃ノ眉美人雛ノ頂ヲ形ヤヘナリ中白キ一筋アリ
○玉柳スヘテ玉ハホメシコ蛤ノハサンテシカモ玉柳シヤト云フ
○此句ウラ若葉ニハ冠里トアリテ吟味しつゝれてきよ

雛くれぬ人を初潮の桟敷かな
緑豆（ヤヘナリ）の花も白し桃の眉
傾城ハよ（ナヲサリ）ふあむやとり合
貝ぞろへを送られしふ
蛤のしるもはまぐり玉柳
行霞ちあつまへ御浴養（ヨリ）の所
そろんけの句なる事よし
御あとて釈迦の御書とも
やらけるよし
脇息子河の花あれと山路かな

笑　走笑〻助男等〻も春立〻　音子

○謡

アノ花折ハ源氏夕皃ノ巻源氏ノコレミツニ仰シ俳ニテ其角作リタルヘシツ〻ラ馬ノ脇息ナルヘキヲ脇ニ馬士トアレハ常ノ脇息歟

○是ハ月ト花トヲ指合也月影ニテ花ノ光リタルナリ今一篇見ヨウトナリ

○是モ露沾公ニテノ句成ヘシコナタカラハ奥ノユカシキニ奥カラハ庭ノ我々ヲ思フラント也

○道成寺ノ謡ニテ地諷

露沾公ノ庭ニて

羅明らよみこん月この初桜
紙のこゝハこゝろく思ふや花の庭
地洲や色の外ゝハ松ゝろ
花見ふ母よつれ〻ろ育児
いさてく〻小町ゝ姉の名ハ〻〻〻
黒谷にて

万日の人ぬちりちや　迷桜
仁和寺
ゆふつ戸のやゝ赤ゆ　桜ふ

トモカ常ニ花ヲ見盡シテ舞臺ニ書シ松ハカリヲ見ルト也

○小野ノ姉古今集ニアリ

時ちがへ小野の浅茅ハ今ハ思ひよるこゝろ

○黒谷ノ万日モ過テ人ノチリハ頃ニ遅櫻ノ本ヘ人ノ行ト也

○金剛経

如夢幻泡影　如露亦如電　應作如是觀

今日有テ翌ヲ待ト云カ櫻ノ常ナリ

上野にて

海助て鹿沼尺ふ　桜ふ
妙筵ゝより花送ゝ
文ハ沼ゝ桜ゝ　もゝ使ふ

花中尋友

饅頭て人をこつまる山桜
一茶て酌上ゝを招れて
初桜天狗のゝいゝ　みこせん
友猿の友ゝゝひすふ花衣

三月廿日　含秀亭ゝ

○櫻見カテラ浮助ハ浮世者ノ寺小性ヲ見ニ行十リ

○今折シ花ヲ出シタルヨウナリ言外ノ意

○ムツキトリニ餞別ノ句ト三ユ

○鞍馬天狗ノ謡

狂言

是ハ鞍馬の山寺に住ム者にて候 扨も當山よりひゝく毎年花見の為とて當年ハ一段見事にて候 唯今文殊持くまいりて候

山ふこゝ市住一京

沛近習や花のこゝろ[illegible]

門柳屋をはゝふ打ち

こゝひす帰

沛用ふ下児ゝすふ花の京

矮屋妻妃の膝をいるのこ

ゝ

ゝ心まゝある酒を呑て

偶偶の戯こつたる華ア八

石河氏宜西ゝの山庵

美景をつゝめて四方ゝ四の

西谷ようゝ夜よものうてゝ見ようゝ久の庵

ゝ

何ゝ西谷の花今盛

も見へてゝよなくゝ音

信ゝも郭ゝもゝる一業

今殿上ゝ　下暑

○俗ニ言片男波十リ俳

諧ヲ本トスレハ也

○偶偶ハイニシヘクヽツト言テ遊女也髪ヲスヘラカシテ上ヘ絹ヲカツキタル十リ其角クヽツノヤウニ花ヲ見ハト云ヿ也水邊ウカレ女クヽツ宿ノ賣女十リ

風情をまて[illegible]

二筋の乃ハ角豆り山ハ

護國寺ニ[illegible]

白雲や[illegible]

立夫を[illegible]

ゝ[illegible]主ヒ[illegible]人ヒ花衣

京よりくる人ニ[illegible]

花ゝ遊て[illegible]都ハ

寢ようとすれを捧つゝ[illegible]山

○道ノ二節成ルヲ見付面白ト作シタルナリ
○晩唐表中郎西上有西湖
○花ノ頃分行空ノ花ヲ雲トシテ白雲ヤ前ニヨリ顔ハ嵯峨顔ノウチニサカヽ有ルト也
○立君足利時代ヨリ有リ只花ノ句モヲモシロシ
○歌
[illegible]
心[illegible]
○偶偶ハ歌
[illegible]

山桜猶を故にて梢この事
花を打く人の磯をたつるん
花を知物くそ花ふるりけり
伯庵

花ゆてそ表書院てお月代
ゆゑ茶て都ハ幕の巻外
巻巻てたつゆ夫婦外
を形盛ふく踏る人もゆ
世れゆやそまとお乃女とそ
目黒松隣堂ゆて

の心きゝ[illegible]
○有集ニハ[illegible]トモアリ同シ[illegible]ナリ
○カイ狙ヲ持来ニ芝原ナトヘ放セハ梢ノヨウニカケマハルナリ櫻ヘ上タルニハアラス崩風流也
○ツレ〳〵クサ
○友トスルモノニツアリ花ハ都シヤケレト友ナシトナリ
○花ノサカリヲ幕ノ盛ト作シ
○ツレ〳〵クサ
イナカ者ノ花見ル所サ

浮世出を禁よ浮世山ぢ九〳〵

遊東叡山 三句

小坊主や松よりくれて山桜
ハつ色乃山ぢさくらや一沉ミ
人を人を悪の姿やそゆよる
労聖山ふ〳〵て
明星や桜ぢくめぬ山りつ〳〵
打手数生倫盗ゆて
ぢつ〳〵と花よ五戒の桜ぢ
行度云事こゆ庭の花を

ヤウノ人ノ花見ル也
○櫻ハ梓ヨリ拖ハ深山ヨリ盛ルモノナリ
○人モ花モサハタシキニハツ過ヨリシントナリ櫻ニ人ノシツミタル也
○莊子ノ俤モアリ
○あるあるとあるよりそ
さくれ櫻も年よまれるる人もまろうり
○花ト月ノ照合也
○晋門人
○醉テ下ヘ臥タルヨウナリ是ニテ句ニナル
○朗詠　公忠
飯ものの俤の宮つこ心あ

ゆりけるこゝ　おそこのうり花を
花をほん使者の御屋ゝ身をぶ
妓ゝ万三てを作て
そのもゝよあるきあるゝゝや小雪
酒のけうあゝさくゝ花を
こゝあむ人ゝ
乃ゝ月ゝ漬味みせゝ　塩櫻
惜花不掃地
赤奴屋もふ彩家ゆゝうり
一日限

ゝもこの春そこうり彩
湯すゝ
○雨後ハ風ニナルモノナリ
五風十雨也
○朗詠
花ヲ踏テ同シクヲシム
ラツ花ヲシミテ踏皮ヲ
ハイテフマント云ヿ

○律國ノ難波トクルゝ
大坂ハ櫻鯛ノ名物住
吉ニテ御前ノ魚トテ釣
ヲサクラタイト云十三ハヤ

さくゝちる仏生五日八ゝすれは
上野清水堂ゝて
櫻ゝけて志ゝも盛のけくゝか
ちる花や湯皮をへゝる豆の心
日輪ちの俤とき豆のうゝ
ゝゝ弟鼻ゝ
もゝ酒俤ゝも俤ん塩　ゝ
一食千金とりや
津國の行五ゝせんけくゝ鯛
辛未の春上巳ゝあゝ日

ノ國日本記ニアリセツヨウ軍談御前ノ鯛ヲ櫻鯛ト云

○櫻餅笑ハ〻〻もくれ　琴風

コレモワルシ今ニテハナシ後ニ思ヒ出タル句櫻ノハカナキヲ云

○雲林院

藤花ロウセキノ人ソコノキタマヘトモアリ

○御成ノ後大名ノ參詣ニ渡リ徒士ヲ見立ル三月出替

○宗盛ト湯谷ヲイヽカケタルナリサレハ湖春ト

門主薨御のよしをつたへて世上一時ヲ愁眉ひそめしうた

其弥生その二日そや山ばくゝ

花ヲ賞ぜこのきめ〳〵喧嘩買

上野御　御成イラルヘシ

ワるう徒士見立る比乃色ゑ尽

尋花

櫻朱屋の亭主留ぜ花いまゝ

御番と清水よ遊ひく

車ゝて為見ぞ尺や東山

晋子二人ノ花見ナルヘシ

○王維山水寸馬豆人

○花ノ影ハ池ヘウツルヽ犬呑ハ已ハカツシテ居ニヨツテ花ノ影ヲ呑後ヨリ鐘ノ入ヲウナリ

○花ヲ濃ト云ニテ三月末ト見參宮ヲスルマテハ俳諧ノウラノヨウニテキウクツ也仕マヘハウラウツリノヨウニチユウナリト云

○灌頂マンタラヲ下置

笠をきせて似合人人を淮酒を妻あるを喜の為見ゝ

此角よ為見人ゝや赤乃豆

深川永代寺池を

池を呑犬ヲ入ひ花の影

甫盛そ〳〵そて上京よ

花そ濃伊勢を仕まを裏稲

湯島律院大悲心院の花を尺ゆて

灌頂の間より もて櫻ゝ

茶もゝひよ晩稚を山櫻

テ布ニテ顔ヲ巻手ニハ樒ヲ持セルナリ闇ヨリ出テ櫻カナ

○入相ノ鐘ニテ人家ヲ知リ茶貫ニ行也

○夫婦ノ合ナリ

○待ノ花ニ見トレテ下馬シタル跡ニ鐙ニノコルナリタヒニテ初ノ字面白シ

○句兄弟　必我

海棠ハ花ハ満ゝ夜の月

○嬉妃ヲ玄宗ノ子ムヒル花ト云古事ヨリ出現ノ字意違フウツヽナイ正氣ナイ体

打とてる花の間乃せ孔ふ
咎豆屋や鐙よのこ原初さて
明ふ　山ふ　桜ふ
海棠（ウツヤ臙ト返シテ吟スルニ）の花のうつや繻月
小ふ居ハ地ふの神うてし山
月（只月ノ）雪よ山ふ花の素新ば
亦是よう本屋一夜ゆつしふ
花（句兄弟又是ヨリ青葉一見トナリニケリ）　素堂
夜明て鯉くふ日をかそへ〳〵
且夕ゆきぬそもるはりば
五影や繻ヤる夜の栖

○辻番ナトニツヽシ植テ小鳥居ヲ立テ置シヲソレハ葉守ノ神カト云カケタルヽ葉守神柏ニカキラス

○月雪モ白シ月ニ見ハ女ノ素顔ヲ見ハヨウニヨキト云フ山吹ノ黄成方色取白キハ素皃ナリト云フ黄ナル物ハ月ニ素クミス也

○葡萄ニ栗鼠ヲ作リ替タルナリ

西行

○心ゐきかゝもあくれ
ハしゝれくり　昭立浮

心ゐきゆ影ゆんそよ岩つ
よふ見ぬ石の五倍や夜ゆ方
白夜を酢みそよつゝふ雲ゆ
河　川道遠
裡の義ハ山ふ乃衆や寺ふ
錦ゆも夜の虱を惜ふ
三月十二日含秀の亭の花
ゆ　百五十余種うへ原
ぬつる下楚よ作りて
植ふよ三切の供や山ゆ

の秋乃夕暮
サンハト八食喰時ニトルサハ
ナリ
○アヤセノ邊御留川也
山吹鯉トテ名物ナリ川
守ニ少々金子ヲアタイ
魚ヲカウ也何シラヌフン
ナリ　朝政ノ諷ナリ
○藤虱ト云モノ有
○コノナンヽ此々ト云唄キ
角時代流行シ也

芭蕉

○くるしまるく旨傷
や茂の花
○椽ニ居テ扇ヲ持テサ
シツスルナリ

同　〃　〃　相
〃　〃　〃　と花乃名残や笘扇
秋航（コウ）庭せゝ苔〃ふ
多そうれや茂椽〃ふ扇元
龍樹菩薩の禪陀伽王ゝ對
〃て貪欲をあめ〃ぬふ
〃きゝ〃と有瘡人近猛煙
始雖悅後增苦の久のこゝろ
を
雁瘡のいゆる時ハ〃法華

○雁瘡ナトハ火ニアフレハ
當坐ハ心ヨキヲ跡ニテ難
義ス也イヱ時ヲ御法
ナト言リ雁瘡春イヱニ
テ春氣ヲ持

○意ヲ立ト取立馬ナリ
曰ハ分チト云ホトノ一輕ノ
トルヘシ
○山里ハ椿のゑ白く
〃れうせき人一多の
ちるうれすせる
山里ハ人テソウ〃シキ
ト云一

法華
ア詞止觀ヨ　天台大士ノ三部
大キナ　觀スル一　法花ノ解書
一目之羅不純ハる得鳥之羅
唯是一目ハ久のこゝろを
〃〃〃〃〃〃〃猫のひ乎ハ
意馬心猿の解
立馬の曰ゑ猿法華心
雜司答ふて
山里ハ人をいとはれの花乃ハ
ワうニ嘯公侍從よりて
宝永二年三月廿七日

○三嘯ハ隠岐殿詞書ニヲミ草履モマイニチカハルト云フナル〳〵シ

○芭蕉翁ハ山家集ニヨリシ人也ソレユヘ西行ノ道ノ邊ノ柳影ノ歌ヲトレリ

○豎題ヲ横ニシタル也

○面起タマイヤト源氏ナトニモ有ウツモレテ居ヲ引起フナリ月ノ面ヲ起テ有明ニメンホクサセシト云此時鳥古代ヨリ第一ナリ翁ノカ子ハ上野ノ花ノ句ト引ハルナリ

京使ヲ待ちの月を祝て
後原やサ七人菖蒲とり
芭蕉の自画十三懐周之讃
師の姿乃十三夜を祝ひ桂陰
ゑをるやあやめ葵も時ち
有明乃面起すやわとまち
夜這星のつゝやる矧
官城
歴〻やのるの打〻時ち

○三十刻舟ナリ犬カ同舟シテ舟中ニテコカル〳〵躰フルキ物ニテ新シタル也

○常体ナレハホト〳〵キス鳴ツル方ヤトスル二夜這星ト置シフ妙ナリ

○ツレ〳〵草鶏啼時招蒐法ヲ行時鳥ハ蜀王ノ蒐トアレハナリ

○貉穴ト云所ニ止宿シテ五月闇ノヲホツカナキニ鶏ノ啼ヲキ〳〵寝ラレスシテ

時ちの色くの名よ交
ありもをかゝくと句
兄弟よあり

河東（浅草川ヲモロコシノ河東ニ取ナシタリ）
川むらゝる屋敷入り矧
鶏啼やはありつきを郭公
暁の水面をけちらふや郭公
（水戸殿）百間長屋よて
時ちの人のはゝ乃水打
矧一二の橋乃振舞
阮咸の三味線〻時ち
傾廓
時ちありつき傘を買せり

○村雨ヲ氷雨ニ取カヘタルヿ妙ナリ時鳥ノ聲ニサソハレタルヨウニ見ユルナリ

○杜宇ト句ヲ切人ノ面ヲ見ヨヤ下水打ト云句ナリ聲ニ我ヲ忘レ通ノ人ヘ水ヲカケシナリ

○一二ノ橋ヲカリ淀ヘ出ル道ナリフシミ海道

○秦阮咸七賢ノ一人初テ三弦ヲ作リ出ス歌ニテ云ハ序歌也

○晋子時代ニハ吉原ニテ竹ニテ折曲母衣帽ノヨウナルニ大コンノシホリ汁ヲカケ賣タルナリ

○向フハ團左衛門家ナリ

○只今ノ用意ニ不非ツタナカラスモテナスカタチ

○源氏

追風用意ナトヽアリ身ヲタシナミノヿ也

○朗詠庐山西夜　俊成

むし〻鳴ふる庵の
ぬれ乃ゑ泪あらけそ山
ほとゝぎす

○セニ鳴ヤト云ヿ銭ヲ云カケ不賣ニニラム町ハツレハ杉ノ村立ニレタル也　伊勢

亦新山

夜ふけてきけ稀なハ太鼓能
察坊主のまゝハ林ふるしの
宰府糸納

○きすゐ寺ふる岳と越よりり

欠選

林中不賣薪

せよ山時ふる町をつ迄
御蔵ニテ木場ニ
ひる江とふ村ふて
ふ山村場の日陰や時ふる

禁ち五加ゝおくをゝとゝ〻ふ
曲終人不見　琵琶行

暁の反吐ハとあゝう新公
時ふるワれや嵐よひれきん
ふまれ松まふまれ時ふる
母よおくれ待てこのと
あきゆめ〻見る暁

夢よくる母をうすゝ新公
枳殼このつ方を伴て
あくこゝろとて

[illegible]川渕[illegible]あるあ
我宿もせよとらりけ
ものゝ[illegible]有る

西行

鳴うつゝも[illegible]せよせ
人[illegible]山四[illegible]
の秋の村[illegible]

○物ニタクラフル時ハニ
コリ闇キト云時ハスム也
○吉原ニ作リタリ
○血ヲ吐ラクルシム鳥ナ
レハ反吐トアツカウナリ
○二ツ聞アリ
一ツ杜宇ヲ聞ニ夜ソト
ヘ出ルニ子モフマス枕モ
不踏又獨身ノ躰ニテ

るの間姉よひ[illegible]せ[illegible]

菜名ゝて

蛤乃やゝきて浮や[illegible]
[illegible]れよりして[illegible]鳥や[illegible]
[illegible]滴を硯よ寄こ[illegible]
人[illegible]の[illegible]月[illegible]あけ[illegible]郭公
時[illegible]茄子もミツの小[illegible]
[illegible]十七[illegible]人の[illegible]
[illegible]れて
[illegible]幟[illegible]

子モナリ枕ト云フニツマモ
ナリ淋シキ躰也
○蜀竈云ニテウコカス
○匂ふ香　宇白
[illegible]一為[illegible]
[illegible]
○タコミツトカナ付タル本
モアリ面白シ
○點滴ヲ硯ニウケシ白
氏文集ニカ有
○樂天詩人間四月芳
菲盡
白文人世ト云
○初時鳥カ面白シ茄子
モニツホトニテ珎ラシキカ
ヨシト也

身消て[illegible]風[illegible]郭公
六阿弥陀[illegible]て鳴[illegible]子規

淺草ゝ樹下

虫つ[illegible]郭公
葉[illegible]て画[illegible]梅や郭公
ちと[illegible]只有[illegible]の狐[illegible]
時る人を[illegible]
目の上ゝ目をゝく人や親

夢昼

砂八日よ[illegible]を次へ郭公

○十六景集ニ詞書アリ京ニ腰ヌケ風呂ト云有
○本尊懸タカト鳴六阿弥陀ヲ廻ルヨウナリ
○杜宇ハ喰物ワルキ鳥ナ虫ヲ銀杏ノ葉ハヨケルモノユヘ也
○葉ノ画ナシ
○[illegible]
○時鳥ヲ待エテ跡カ狐ノ落タルヨウニキヨロリトナルナリ
○杜宇ヲ聞トテ寐トスルハ古シ人ヲ馳走トハ客ノ

姉ヶ崎の野史忠功孝心を
きこ[illegible]められて禄をゆ[illegible]
[illegible]せよきこえ侍るを
起てをけ世ゆ市ゑ忘記
佛さ[illegible]この世百ハ[illegible]きよ
[illegible]やけ[illegible]ハまれもろん
孝飯や母よ[illegible]せて仏[illegible]
風光別我若吟身
大酒よ起てものうき袷外
越後屋よきぬ[illegible]や衣更

タメニ寐スニ咄スト作リタリ
○晝一日歩行テ四月頃ノ大風ニホコリ入シヲ時鳥ニテ目覺テ子サメヲアライシト也
○此世間ハクルシキニ佛サヘトカヘル歌ナリ
○母ニタカセテト云ニテ仏生會ニナルマヤフニンニカル
○杜甫
○八瀬ノ釜風呂ト云ヿ二三十年マヘマテモ黒袷ニ白半エリヲカケタルヲキタル也今ハ牛サヘモナシ馬ナリ

一ッとるよ袷ゆ[illegible]や黒[illegible]
外月ハ日毋よ[illegible]れて
[illegible]よとりて衣[illegible]
慈母墓
花[illegible]ようやしこ[illegible]る[illegible]
上野ち
灌佛や拾[illegible]別ちの児
[illegible]句含よナリ晋子集ニ照シテハヨトレリ
年[illegible]
殿つくり並て[illegible]相の[illegible]

○大和物語　重之
橘色子深　袂のお
しなべてかくるるまで
ぬれぬるかな
○母ノ縫シ衣ヲ脱ハウキ
トナリ
○月日ノウツリカワルサマ
ノ花カ茂リタルトナリ
○花ト水ナリ佛ノ花水ナ
リ手折シ花ヲ根ノアルハ
ナノヨウニ作タリ
○仏ノ赤子トヲ取合サル
ナリ
○有集ニ寺ノ沙汰トモ
アリ
○マタ年ノ若キヿ也若

夕のもあつさ
うれめや異見ヶ洞む夕杜丹
いつ屋れあれ
河品新心寺　楠鎧アリ　観心寺水ノ粉出ル尼寺也
楠の鎧ぬ
筑前石を
ぬ中の筑ようる牡丹
雨意　艶士あめて
ハるをうつ
池田の尚　地名　人名　連歌達人古今傳更人　崇子　柏のり状を

葉ノウチニ花カ爰々ニ殘タ
ル吉野山ノ余情也
○攝家ナトノ高樓ニ並レ
テ咲シナリスヘテ常ノ所
ニハサカヌヨウナルモノナリ
○容形ナリ花ト人トヲア
ハセタリ
○奈良ノ金持ト云ヨウナ
ルヿ何某ノ牡丹トテ今ニ
有
○牡丹ノ異名鎧艸
○日本記
景孝天王ノ記ニアリ神
火ニテ人ノシラヌ火ト云ヿ
○艶士カ文外ト云集ア
リ句ヲ遣タルナルヘシ

あつめて集あめる
さそ
下治月社中の一日
隠岐殿のつま　見テハヤストナリ　尺をやせ筑山
紀伊百里全国南紀
上京の所ニ十三句の序
定永間元奉幣使
市代糸の人の家よて
氣て伊せと淮ら衣ら
屏風ト後房ニ住するの不

○牡丹ハ人ノ笑フヨウナル形ノ花ナレハ専ヲ現ニ笑フヨウナリト云ㄱ
○此句不詳
押テ云ハヽ肖栢ハ牛ニノリ金銀ノ箔ヲ角ニヱリテ持遊ヘリ蝸牛ヲサヽハ牛ト作リタル也

肖栢

○雲吳ぬ花やんのふ
こうゝ艸
○甚花麗好ナル人ナリソレユヘ夏氣ニ用タリ見ハヤセト云出シテ鏡山ヲヽサヘタリ
古キ附合ノ句ニ隠岐殿

迷ひ子ふれこ位よふこ時ゑ
長崎屋原たろ家よ紅毛
来貢の所く奇なりとて
桐の芝彩波の路酔不言
愛娘子
鶏啼て玉ゑ吸蚊ハあるまゝ
序今初めて上京よ餞
涼こと都（扇州トカケ合）の（霍ニヨル）ゝや連ゆ金（万貫）
護國寺（慶正院様）よあゝふ
水漬よ泪こゝゆや牡ゝ

ヲ句ニ作金ノ玉三尺縄ニカケマクモ
○安藤冠里公
伊勢マテ誰衣カヘノサヽハリトシタル氣テト下ヨリ廻ルナリ

柳巻

すゝこの山ハ十湖の波よ
（伊勢まで）
（誰）の思ひやもつまき
○迷ヒ子ノ三位ハ三太郎ト云カケタリ
○桐ト鸚鵡ノカケ合新渡ニテ日本言葉カ聞ワケ兼テ不鳴
○子ハ明方十ト二目ヲ覚

うきゝつゝゝ乎ゝゝあゝ二ほれて
笠の袖もたゝりきつゝく
簑ゆけ面よ提来ぶ 杜若

李納

ゝゝ衣ゆ影やこのけて杜ゝ

田家（カツシカノ真洞ニテ）

ゆこめよ足たゝゝ嬉さら
汁鍋よ笠のつくや苗取
木賀入湯のゝろ
ゝゝとや苗ゝゝるもの門

モノナレハヨリカケ合
○世説一人ハ揚州ヘユキタイト云一人ハ鶴ニノリテユキタイト云一人ハ銭ヲ万貫持テユキタイト云揚州鶴
○イツソニ鶴ニノリテ万貫ヲユシニツケヨウ州ヘユカウトノ古事
○伊勢物語也
此句ハ水漬カウマサニ泪カコホルヽトナリカナシキト是ハヨロコフ泪ナリ
○杜若蛛手トモ云紫ノ蛛モ有モノ也良考ノ句

袖裏や茄ようげふ白くくるま
舟高し均しを吹やうゝ蛍ふ
卯ふや蛎こゝ山の石ゝ戸
うの花やいつまの御所のか茂清

寄幼吁長老

老僧の筍をかむあゝ歯ゝ
筆ゝ竹ようおくゝ大にゝん
竹の屈を折節吟やゝ月園
筆やゝ山ゝとの鎗の鞘

素堂居

ナリ

匂ふ手　信徳

西の日や門提て来る枯ゝゝ

○葉平天神
杜若ノ折句ニテ仕立タルナリカラ衣ハ裳束ニカヽル
○サスカニケソウニハアラ子ト足ヲ洗ハセテ面白シトナリ只鄙ヒタル幹
○未詳
古ヘハヤリシ白茶ノウラナルヘシ
○卯ノ花ニテノ秀句ナリ卯花ニテハ手モ附ラレヌ句ナリ山ヨリ蛎売ナト

竹ゝ戸ハ皆喰ものゝ友の竹

机ゝ居

夏竹や家ハゝくゝれて市用茅
友ゝゝや橋ゝ尺ゝ石の通り
目通の罡の根や葉ゝ
吐ゝ粉のゝゝゝゝゝ箱ゝ
粉ゝつれて一里ハ来ゝ罡の松
筆ゝゝ充ゝ平やゝゝゝゝ
戸塚誠ゝゝ
鞭荷の沈ハ巳日の石考ゝ

ハ出ルモノ也
○夫木
里ひさる犬の声まで
きゝもてくる世よりた
くの人乃家居ハ
○竹ノ子ヲスマントスレ
竹ヨリオクニ犬ノ聲トナ
リ竹ヨリオクノ人ノ家
居ヲ犬ノ聲ト作
○世ヲ捨テ脇下ニ耳掻モ
ナシトナリ又茶人也
腰下無寸鉄
○晋子句調ヨリハ別也
○ソノ身ノ酒ヲ吐ニカケテ
句作シタルナリ
○名物ノ鵜ニヒカサレテウカ

帳をかろす舟ハ銀の磯くれ
夕焼や赤の夏よあ中ゆく
あゝまつ通る時
世中を志ゝのこし小簾ゝ
支考上京ノ餞ノ句トアリ
飯能の鯨ふつゝよ都ゆ
和垂餞ヨ
伊せゝも松魚ゆ見ん酒定
こよろきの名ハ昔ゝそゝづゆ
呈寂江公餞
箒木や人ゝるへゝつる五月雨

リウカリト来タルサマナリ
岡ノ松ニテヲトロク
○画興兎ヲ画タルヘシ
○荘子ノ蝸牛ナリ
○末若葉
先師カマクラハ生テ出ケ
ント聞ヘシ折ニフレタルニ
ナリ
○世ノ中ヲ知タト思フカ
カヘツテヲロカナリト云フヘ
シラスカヲ句中ニ入タリ
○酒ヲ持テ迎ニ近友共ノ
出ルナルヘシ
○コヨロキハ大礒ト小礒ノ
間鎌倉ニモアリコヨロキノ
礒トテ古ヘハ魚ノアリシ所

ちゝこれや見ゆるかを通る人
絶景目前
新ぬくふ田ゝのもすゝやゝ五月雨
ちゝこれや月士の泊乃ゝ浦ハ
五月雨や傘ゝはる小人形
きゝこれ乃酒匂てくさる茄子
巌宿院殿乃大法ゝを
東叡山ゝぬミ奈ん
五月雨の中ゝ休むゝ法の声
市驛吟
ゝる舟とゝゝる鰹やけいを組
二ツ組ユヘニクミト云

サスカ渦輪ハコリタルト也
○序歌ノ躰晋子タヽクアリ常木ト置タルニテ調色シタリ
○是コリ外ニ五月雨ノ句古今ニナシ廓ナトヲ横サマニ立テ子ヲイタキナトシテ外ヲ見所眼前也白雨春雨ニカツテナシ
○いこのはつり四子のもとそやそろつゝん宇百もゝつ思ひの五月雨
居リ立田子入ヌル蜑ト有田ヲ植ル人
○イニシヘハ傘ニ人形ヲ小

さゝあやめのほもとる花ぶ
公門ヲ入ル
あやめるく明ゝ清ゝ乃こゝろ外
幾泊を沼よなゝ〜る菖ふ
ゝふもけふあやめもたのやめ
ふゝぬよ宿ゝそあるゝ
やゝ〜もほゝ〜ゆ 住ゐれ
所つゝて〜よゝりと伊せ大
補家のゝ〜ゝよゝゝ住る
菖ゝそ蛙のつゝよたのやめが

雨ナトノ時ハツリ賣シト也
ソレヲ見附テ五月雨ヲ置タリ五月雨ニハ傘ニ釣ニ非ス
○万部ニハ案散ト傘飯ヲ下サレルトナリ
○法ノ聲ノ有難サニ五月ノ雲モヒヱルヨウナリトナシ
○ショリ人歌合ニケイハ組トアリ角カ競馬組トアリ一番ニ番ト同シ
○図両テハナクテアヤメカ障子ニワクヨウニ青ク影カサスト也
○平外躰
シカハアレニ歌ニモ菖ハ沼

ゆ友やゝ。ゆをうゝゝゝ白紙
二毛の方をワすれて松ゝの
お所とのゝうゝとの ゝ花を
との人形の風俗をゝうゝよ
小ゝ赤あゝゝふ人形ゝふ
我もゝ〜坊主大夫や花菖
五月三日ゝゝ家ゝ
屋根背と並てふけゝ菖ゝ
あゝ〜ゝ女の塔の沢よ
入てゝゝゝゝゝ

ヲヨムユヘ沼ニテシホラシ
○蛙ノ面ニ水ヲカケタル
ヤウニ去年モ菖ヲフクウ
ツラウツラト暮ーハ蛙ノ
面ニ水ヲカケルサマナリト云
事
○坊主小兵衛人カラ笑
キ道外ナリ
○始ハ誰シモ坊主太夫
ナリ人形ツカヒ樂ム人ノ
身ノ上ヲ云ナリシヤクハイ
ノ句也
○山笹ノ葉ニテセメテ湯ナ
クサミ粽ヲユヘトナリセメテ
ハセンカタナキ也
○イツマテ艸ト云ニテカヒ

山笹の粽やせめて湯あくさこ
艸の戸やいつこと茅のこし粽
本性しし夕へを志めて菖ゆ
五月十三日
雨雲や休も醉ひ乃人あつめ
藻の茅や金魚よろこぶ笹
酒滴
菖のこと乃酒典童ふも二面
青嵐といふ影を
海松ゆ多よ枝の嵐や加茂山

ト留カヘニカケシサマニヘハ十
リ
[illegible]
方のそて〳〵そらき
○不詳
○竹醉日ヲカツケニ客ヲ
アツメ酒ヲ呑トナリ
○伊與簾ハ古ハイヨ〳〵リ
出ル枕草紙ニモ出タリ生
舟ノ句ナリ
○土佐カ人形ニ扇ヲカ
サシテ酒ヲ呑ムト真紅ニ
成童子アリ葛ノ葉ハ
秋ナリナラノ葉ナルヘシ柏
ノ餅ニモ作

蝙蝠の屎もるるふるあやめ草
文代の葵守の神や加柏
疱瘡ゆ河とハ冬こふ 懸ゆ
緑槻高安
そつせきや笛よ袋を十文字
つつ乃酒乃肴よ這せり
蟷螂や むし〳〵の角乃好牛
くろめてや休よ生るくつ乃
文七まふまるふ庵のくつふ
河原町みて（四条ホント丁ノ古名ナリ古ヘ八田者ナト有シ所）

なゝの葉乃こめ子
柏の二面とゝもゝく
ゝも移ちけゝ
○青嵐出所不知　俊朝

歌題連歌題ニモナシ句
ハ青嵐ヲワリシ也香ノ
字艶ナリ
○蝙蝠モ蝿ナトノヨウニ子
二十九ナリ不詳
柏本ハ葉ゝの神のま
ゝゝを知ゝゝ
たゝりふさゝふ
葉守ノ神柏木ニカキラ
ス初柏ト云ニテ初テ子ヲ
持タル家中ノ所ヘ遣タ

妾ノ家ちゝふ山ゝ告やゝん
宇治ノ
川ゝやゝ水よゝ二重のちゝゝ頃
源氏
うつせゝの繪よ　美敷蝉ト云フ歌モヌケノフ歌
夏虫の碁よゝこゝろゝ
谷中
風ふこゝの森のゝつゝやゝんゝ
俊西ノ谷
俺ゝらよ貝ゝ俺よゝんゝ
ひやゝや姫根性のふゝれ声

ルヘシ　フリ上シサマ
○不詳　樂人ヲ尋ヘシ
○俳番匠
草菴薄酒ノ興友互ニ
對ストアリ
○懷古　莊子
○竹生島
タノメテヤハ頼テ也ハカナ
イ竹ノ葉ヲ頼生ルヽト云
フ
○妾カ所ヘ螢ニ小唄ヲ
告テヤラントト云フ
伊せ物語
飛ふ螢ゝの上ゝ
ゆくゝゝハ秋風ふゝと
厂よつけこせ

内藤
霞沼公淄池の高閣よゝ
ゝ涼を枕とゝ当座と
おせあゝゝ
夏山よ我ハ御菴とゝ女ハ
蓮生ハゝハよゝゝを出拂し
棹脳よ代をゆつゝもの鎧ふ
よゝゝせ　時の松ゝ土用ゝ
旅人や本州よゝみて土用ゝ
浴衣義て瓜買ゝ袖ゝ
粗公　牽ノ　淄池よゝ

○宇治昔八螢ノ名所今ハナシ垣ヲ結ヒテ螢ヲ脇ヘヤラレトスルナリ
○灯ニハコカレツ碁ニコカルヽト云ニテ軒端萩トウツセミトノ所ニハル
○感吟
○侘シケニト云事
○木ノ下ヤミナリ苦熟ト流石ニ有
○内藤露沾公ノ兄公
○セレカ清少納言ノ香炉峰ノ心ニテ我ハ簾取女成ト作レリ夏山トシタル所妙々也御簾巻トシテハ句ニナラヌ

瓜むいて猿よくハするたつさぶ
水飯よりハりぬ化のつらぶ
干瓜やうつむけてゐる蜜小舟
瓜の皮水もゐてよ流れうり
亀毛よ餞
瓜の皮笠ハ童とうたまうり

破扇の圖

維光り宿笑く扇ぶ
烏瓜紺のたつふきのたつさぶ
紅よりうハのつき乃白ぶ

○黒谷ニマカリテ拜什物ト未若葉宇都宮弥三郎頼綱出家シテ實信坊蓮生ト号ス詠集コトニ有是ヲ熊谷入道ト云アヤマルモノナリ宇都宮入道
○樟脳ハ匂フモノ也代ヲユツリ葉ト云カケタルナリ
岩井與衛門方ヨリ公儀ヘ上ル具足楪ノ御鎧ト云
○楪ノ鎧伊井家ヨリ献初日ノ御祝儀ナリ
○表ニテ知レル句也サリナカラ感深シ上用テ句此

せミ帰やホのうりうる国うり
隣うゝ中本にくむやせミの色
井のせミはらよ志はる時ハ
みうてやせミも崔もゐうる程
白雨や内儀ゐ方ゝ物語
市中白雨ところ歌
蓼の香も久うつうる腰
白雨やもりをとも化て風のよ
ゆつうやよ蓼あつ〻ゐ蓼ハ
夕立よしとりかうる女うふ

上ナレ
○捨人ノ巾衣頂陀ナトノタクイヲ木艸三千タル句ナリ晋子句調ニ非
○浴衣ヒラノ略
○荘子齊物論　列子ニモアリ　狙公賦節曰朝三而暮四
暑共ヲ木陰共共レタル集アリ
○干瓜ヲ水飯ノ菜ニスルモノナリ
○白瓜や冬に瓣あり
うり瓜や汐のうき乃
拾小舩
○川中浪ニ行ニヨツテ水

中島三遺の神前にて
雨もすゝものよりうり
夕立や田を見めぐりの神あり
翌日雨ふる
猫牙ノ舟中吟
向フニ三ノ待
ぬるゝに乃筋波ふるもてまつ
此方ニ三ノ八里イキヌルトニ
西行と武蔵坊ふはるゝふ
芋ばたに命をつゝみ
宇服
にんゝの沈ん清水の心ふ
土用のいりとふ日の水こ

モ
○笠重呉天雪　ノヨウニ流ル、也
○ゼ、本多殿ハ親東順カ且那也　時古キ破扇ヲ出レテ小性共頼レヨレ今ニ本多家ニアリ
○白ス八色ナリ衣裳ウスヲ句フト云
表紅裏　薄紅
同紫同　薄紫
ナト、モアリ
○竹敲ト竹ノ蝉トヲカケタル鳴音ナリ
○名句
○風ナトノ腥クフクモ也
○うひとのゝ〳〵かな

箒木よ茄子つぬる夕車
下野ニ
烏山おもむく人よ
青柳やつゝむ程ある蚊の色よ
夕こゝろや白き寒垣根より
暮焼ハ夕べを青ゝぬ世界ふ
麻村や家をへゝつる水車
武人の居者糸宮ゝけよ
ちゝむけすゝて
夏の松を吉沢り冠者よ根ぶ
友の衆ハ痛ぬよ痢氣の起り

うくひすよのこゑ白髪
老声乃暑きとまり
○今云雷キライノ女夕立
雲ニ友〻ソトヲミルサマ
○夕立ヤフト呼カケタリ
下知ニナルナリ

衣通姫

○我せこゝ屋き宵
ゐりいらゝよのくものふ
るまいゝ祈〻くるゝも
筑波神鳴ト云

西上人

○ちの〻ゆ清ゐ流〻
柳ゆ木川とそこ
立とまりつれ
○武蔵坊ハ小國落ノ

生死去来

鳥り坂ハいつくより音の声

捕虎　東坡　文集

七ッ毛の坂よくるゝもや足疾鬼
坂柱よゆめのうき橋かゝるく
蚊をやく屋廉妙り閨の私淫
ゝやり火や坂屋つる方よ老猫

更閑　類材子二文有り

石炉篝坂屋よ消り粉舟ハ
いきけさよすてんとうと

トキ京ノ君ヲツレカメハ
リ坂ニテ清水ヲ汲レ
アリ
○芋ノ葉ナトニ清水ヲツ
〻ミテクット呑ミ所カ命
レヤト云句ナリ人ノ命ニ
ハ不有
○箒木トタトハカケ合タリ

西上人

○こゝ涙ゐき水もあ
それ川これ〻り時立
深の秋の夕〻も
○有本別共トモアリ

人丸

○友のくハ涙ゐよ明
くとい色人ゐ

うちとゐきれこるゐきめて恋
切ゐるゝ夢ハ誠り蚤の汝
旅店
西士の雪蝿ハ酒屋よ飛り〻り
ある人大ゐるゐく〻を二ゐ
別て盗と〻ハ炉ゐしのま
内ハ米よ塗て口よも傷
をり〻せて白をのゝむ
清水新雪白り面よこゐり〻り
形目鼻ゐきめんのやゝ

○足ノ瓜キハニ七毛ト云
コアリソレヲクルレム

宮家

○夢のよもすがら
[illegible]て峯より別る
[illegible]の声

先後アリ定家郷ノ歌
明方ノクヘシコトキ角ノ
句ハ今テカケル十リ

○陽王ノキサキ
姐妃炮烙ノ法ノヨフナリ
○蚊屋ノヘタテニテ消ル
ヨウナリ
○鵜舟ハ燈篭ノ名
○前書平外躰ニテ面

浅草河歳〻吟涼

此人数舟眼ぶれたてそれ〻ふ
川涼ミ新よ泥ぬる涼りふ
涼ミつむ安房や上総よ舟ハふ
すゝ〻さや帆よ新しのちゝ髪
舟暑し歌うれのそく園の新
千人ゝ〻を綱手や柳ゝ人
涼ミや先武蔵野の流星

韓退之拾酒吟あり
酒ちゝ舟をゝ〻やむ涼ミふ

白シ
○影モト結夏十リ清水
ト斗雑十リ
○共ヨリ留タル十リ

○涼石

南ノ風ノハシリ吹テ千片
一行帆ヲ望ニ醉テ
画ノヨウニシタル也安房ヤ
上総ニ舟ハ十リ江戸ハタリ
有トミルハウロレハルタノ仲
ノアハカツサ舟カ所〻一
葉ノコトクミヘルサマ也
○勢句十リ舟人ノ躾ニ
笠ヤ雲ノ峯専吟カ句ハ
ウコタス此句ハ躾身ニ風
ノサソイ来テ髪ヘタルヨ

こはゝ〻
此碑てハ江を哀まぬ蛍ふ
牛御前
是や皆両を吟人乃すみ
柳上休老とふ影よ
牛泥む老の歯ゝ〻や柳ゝ〻
舩を玉るてゝ〻くゝみふ
海を見て涼む角ある鬼尾
餞久松肅山
筆をさゝ伊笠やくるまゝ涼

ウナリ画ニ魂ノ有ヨウナリ
目鼻モ分ス大風ノ吹サマ
言外ノ意有ナリ
○有集ニ京ノ五條橋ニ
テトアリサリナカラ両國
ノ方面白シ
○酒ホカストテ一ハ捨ルヿ
ニテハナホウリ廻ルサマナリ
○墮涙ノ碑司馬相少
カ古事又哀公ノ碑ト云
セツモアリ
○上ノヤ字ハ口合ニテ不
切字ナリ非口合ノヤ也
○牛泥ハ牛車ノ跡ヘ
サカリニ牛ノ坂ノ上リ兼
ルヲ老ノ歯カミヲシテ

人のよをめて
涼しいの麻てつむり刺ゆめ心

画讃

大虚涼　布袋乃指のゆく所
ロ枝よ毛ひのふ山神を
十八の明神一つ手よ引く水
河原ふて四條牛ノ通ル道ノ

晩を牛ひくすみ車りか
中ほよりつす風あり座すみ
勘常乃月表ふ神涼ふ

カムサマナリ
○舷ヲ敲テ去ルトモアリ
玉子ニテ古書ヲ遣イシ
ヿ手柄ナリ
○聞タル句幹斗ニテハ
有ルマシ
○筆ヲサストテ所ニ肅山
カ風流ノ所モ有餞モ成
ナリ笠ノ下涼ノ軽キトテ
ニテ羇旅ノ形
○未詳
○涼車トシタルニテ花見
車トテモウナルアンハイ也
○寺ナトニテノ大庭ノ句
成ヘシ風カ大松ニ吹當又
松ヨリ吹返ス風也何モ

暑字　り家ふて
むゝ雨の木賊よ通る暑ふ
呈餞　露江公
借りゝの鞘乃暑ふや岡の松
人ふ又暑ふ影あり端涼ふ
自葉　スツルヿ
ふり為ふ影起昼寝夕ゝ
五月十日雷雨永代寺の
菓店ふやりして
明石より神明晴て鮎の蓋

ナキヲヲ能キサミ立タルヽ
○平外躰也親ニ勘當ウケ世ノ中ヲヒソクレテ遊子
殘月闇ニマキレテ涼ミ出タルカ月ノ更テ返ルサマナリ
早ク勘當ト云ヲヲ見附
句ニ作タルナリ
○俳諧ニテ白雨ヲ村雨トユルレタル也ハラ〳〵ト少フリタル雨木賊ニ白露上リシニ盡ツカタテリ附ルヨウニ
暑ク成リ木賊ニ村雨ノトウスヤウ也日ノ出タルト云ヲ添テ見ルヘシ
○岡ノ松ト八躰ヲ作リタル也無用モノヽ有ニテ面

大坂

住吉まて西瓜の矢數俳諧せ一時よ浮ん〳〵のこゝろを

騰の歩〳〵二万句の蝿あふさかり

七十余の老躰尺まうして弟子ともこそりてあくはを追

善の句をたけるこの老躰

いまそうけ所存は尺

まる人ともたつす家ともも

ものしよ〳〵すして古来稀

なるこまゝそおとい〳〵

白人家マレナルサマ眼前
其角此躰多シ
○端涼ヲレテ居ルウチニ
有ルナリ
○朝盡昏ト結ノ句也上
五文字甚ヨク居タルナリ
○源氏次摩之巻
永代島次摩ニテ深川ヲ
明石ニレタル也鮓ノ蓋ハ
酒ノ肴ナトニレタルヘシ
○此時西鶴二万三千句
俳諧ノ息根留メン大
矢數
○騰尾ニ附ト云ヲ蝿馬ノ
尾ニ附モノナレハ蝿ヲアヲキ
テ心ヨクレテ遣ルトナリ詞

のくゆるかさうれを

六尺も力ものしやうの

村田忠菴（今八上市隠者子孫有り）

年ゝの秋武江のる社を

ものふある霊仏実神者を

まうしたのしめて長慶の

威沢あ〳〵たる中ゝも當

時の用性ふたつのゆて〳〵や

札をこゝれて官賀鄙ゝ

のさうひゝ暑をあやまる

書ノ後見(仰立ト有所合ム

○初メテ護國寺ニテ開帳ハレマル

○放下僧

西ハ法輪嵯峨ノ御寺マハラハマハレ

○牛島ニ隠居シ後ニ増上寺ニ被仰付

○世ノ中ノ人(哀ヲカケヨウリ名号ト云句夕顔ハ閑居ノ風情ヲ上置也

○晝顔ニ米搗休哀也

翁涼ムニハアラス

霍乱出氣のはそりもあく蛾
乃てくにはふてはふ行
程の遠近を辻番そうは
ノ[illegible]て
[illegible]ハ旦を振舞水の下宮乃
祐天和尚[illegible]
夕彩よあそれをみと貴名号
昼彩よ米搗涼む影や
故郷の白を縮ふ[illegible]せて
濱のそむ[illegible]の縮ハ夕

○夕顔ノ巻ノカラウスゴボミミトナリテト云フヲ取タルナリ

○夕貝ハ昏ニ咲モノナレハ一日ノコルナリ花ノ宿ハ夕貝ノ花ナリ

○蠅ハコソウニシテヨク子ノ字ヲタスケタリ

○蟷螂カ斧

○戰國策

子ノ肩休メニ水ハ汲ナリト云フヲカケタリ市中勞シロ女

○大和物語

年(ゆも)ハ仏の数も白川のミつよ〳〵むま

貝乃ゑ成書ふり白とた
りしはるゆ〳〵自句を幸侍
彩や一日乃こすゑの宿
夕(古文)逐欧陽公賦
蠅のゑ此兄よ舜ゑき悠さゑ
画讃(通小早夜)
蜻蛉の小蛇とハいと本百合
ゑ此(幼)肩とこつ(若男)そくむ〳〵交早
魚(日本橋十九レ)市涼霄
楊貴妃の花ハ活る望りふ

く老をしるべ

○楊貴妃ナトハ畫ハウツラ〻〻トシタルサマニ見ユルナリ 松魚ノ夜ニ盛ルトイキタル所ヲ作レリ

遍照

○蓮葉の濁りよきまぬ心すゝ仏この八房をむとめさむく

○荷切夏ナリ今ノ俗秋ト覚タルモノ多シ

○歌仙貫之ト書レヲ見レハ六歌仙ノ書タルレキレヘノサレナルヘシ

○今テハ冠ノ間ヘ浮キ結ヲ入テタヽイルナリ

七月七日靈字を感して

東游の遊女天よ治待るよ

出ぬ茶屋ふ歎りれても蓮ぶ

荷切や下のゆ一ゆを草を肩

歌仙貫之の古画よ

冠も指をそふめり亦の乃汗

書流亡妻をいくこして

周女とふこれや世を友の海

上下と裸の殿を夕ゆくみ

あふ市方ようあさりあすす

○紀國屋文左衛門一家手代ナリ宗祇ノ墓ニテ頂ヲソク後ニ敬雨ト云歌有ヘシ

○問ノ者コソタ涼ヲレヨウトナリ

○ヤ哉ノ句ト云 ハバモヂ 何レニテモ不留無是非ヤノ字也 平家物語

○軍繪ト詞書ニ有ニ依テ与市ト出ス扇ハアレトモ玉虫ハナレト也

○實方ヲフマヘタリ

○鬼ノョウナルト有ニ依テ弁慶トヨクナリ

くるる扇をしさんせとあり

鼻や扇のちまを垣根が

とゆてをくるふさまて

まふ軍繪りいくる扇を

さんぢませあふ再ハ中蓮

涼風やぶ一をまく女ふ

桃隣ナリ

鬼のやくるは師ふちのく

くるとて屋祖神よりめ

れ吳例ーて行ゆのよ

介抱せくを涼まのして心よ

○桂里

桂川サカ也昔ハ禦ヲ守リレモノタ今ハ絶テヨリ瓜ヲ守トナリ懐古ノ句

○越前庖丁ノ名物　光廣郷

いのはなり秋をきこゝ
ゝ小刀ハたもてゝ人
の弁ハ百まて

○石上寺フルノトツ、ク昔ハ清水テアツタタ今ハ百性ノ手橋ナリトナレ

○土佐日記ヲレ鮎ノロヲ吸ト云フ有リ　中宮

○涼ゝ〜ハいきの杉

ハきみとも送てれ千よ
弁慶も食ぶ瓜守や　瓜畠
瓜守や桂の生例さてよう
城ものの人の土産をあて
光廣つのゝ〜ちもし合ち
祖父光まるゝを祖て
元角田川牛四とふ
いろのゝ〜ふるこゝろ高
御舟銭よ頂ゝて
貫之の紙のすゝふつもゝ

原まゝ〜ふる
扇の風ふゝ〜ふ

○コレハツクレ行人遣サレレ歌ナリ詞書違イタルヘシ生ノ松イカ、忘レン汗拭ヒ　コレカ

○市原ニ小町堂ト云アリ後人ノ作タルヘシ

○朽木ヲ干ストレテ土用干ニナルナリ

ゝ〜ゝけの一句を扇
ふれて生の松ハ〜ゝ
をよん
木曽路とも涼き味を考ふ
京ノ方ヘ行道　市原まて
出ゝまを朽木の小町干ハ〜ゝ